

5日 土曜

ホセア

4:1 イスラエルの子らよ、【主】のこたばを聞け。【主】はこの地に住む者を訴えられる。この地には真実もなく、誠実さもなく、神を知ることもないからだ。

4:2 呪いと、欺きと、人殺しと、盗みと、姦通がはびこり、流血に流血が続いている。

4:3 それゆえ、この地は喪に服し、そこに住む者はみな、野の獣、空の鳥とともに衰え果て、海の魚さえも一掃される。

4:4 「だれも口論してはならない。だれも人を責めてはならない。あなたの民は、祭司と口論する者のようだ。

4:5 あなたは昼つまずき、預言者も、あなたとともに夜つまずく。わたしはあなたの母を滅ぼす。

4:6 わたしの民は知識がないので滅ぼされる。あなたが知識を退けたので、わたしもあなたを退け、わたしの祭司としない。あなたがあなたの神のおしえを忘れたので、わたしもまた、あなたの子らを忘れる。

4:7 彼らは増えるにしたがって、ますますわたしに罪を犯した。わたしは彼らの栄光を恥に変える。

4:8 彼らは、わたしの民の罪のきよめのささげ物を貪り食い、民の咎に望みをかけている。

4:9 民も祭司も同じようになる。わたしはその生き方のゆえに彼らを罰し、その行いのゆえに彼らに報復する。

4:10 彼らは食べても満たされず、姦淫しても増えることはない。彼らが【主】を捨てて、姦淫を続けるからだ。

神様はイスラエルの罪について明確に告発されます。それはイスラエルを滅ぼすためではなく、罪を



認めて、悔い改めて主に立ち返るためです。

私たちも罪が明かになってしまふときがありますが、それは主の愛のゆえであることを知りましょう。主はホセアに示したように、変わらない愛で赦してくださるのです。

祭司を責めておられるのは、祭司こそがイスラエルの罪に対して、信仰への回帰を担うべきであつたのに、それをしなかつたからです。主がイスラエルの社会を形成され、それぞれの役割を与えたのに、それが機能しませんでした。

教会でも主の役割と責任がありますが、それらが機能するように、私たちは主に従いましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

